

児童発達支援センター・事業所における 乳幼児期のインクルージョンの推進に関する調査

【調査へのご協力の依頼】

- ・当研究会では公益財団法人日本財団の助成を受け、「障害の有無にかかわらず全ての子どもがともに過ごし育ち合うインクルーシブ保育を実現する」ことを目的とした調査研究を進めており、現在、児童発達支援センターと事業所の実態を把握するための質問紙調査を実施しております。
- ・ご多用の折、誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただければ幸いです。なお、本調査は任意調査であり、調査に協力いただかなくても不利益や罰則などはございません。
- ・回答は Google フォームを用いて行います。Google にログインしている場合は途中保存されますが、ログインしない場合は途中保存がされませんのでご注意ください。そのため、回答を開始する前に調査票をご覧ください、回答内容を予め準備してから開始してください。
- ・回答には 15 分～20 分程度かかります。
- ・本調査は、**2025 年（令和 7 年）年 10 月 31 日（木）まで**にご回答をお願いいたします。
- ・ご回答いただいた結果は、報告書として取りまとめます。また、ご回答いただいた調査票は統計分析のみ使用し、ご回答者の許可なく貴施設・事業所が特定される情報が公開されることはありません。

【用語について】

「保育所等」とは保育所・こども園・幼稚園に含め、保育事業（小規模保育事業、事業所内保育所、企業主導型保育所）など、乳幼児期の保育に関わる施設・事業所を含めます。

【ご回答方法】

- 以下のリンクから回答フォームを開いて回答をお願いします。

<https://forms.gle/LdeQkAiCx BjEwHw79>



※以下のいずれかの方法で回答フォームを開いてください。

（パソコンの場合）

- ・上記回答フォームのリンク先（青文字、下線部分）をクリックしてください。
- ・クリックできない場合やクリックしても開かない場合には、リンク先「<https://forms.gle/LdeQkAiCx BjEwHw79>」を直接手入力で打ち込んでください。

（スマートフォンの場合）

- ・カメラより、QR コードを読み込んでください。

【調査内容に関するお問い合わせ】

社会福祉法人麦の子会 PRD 室推進事業 事務局

担当：尾西・志智

E-MAIL：muginoko.inclusion@gmail.com

電話：080-7618-7771 （電話対応：火・水・木曜日 9：00-17：00）

1. 基礎情報

基礎情報は、特に支障がない場合には、2025年（令和7年）年8月1日現在でご記入下さい。

(1) 施設・事業所名 _____

※施設・事業所が特定される状態で使用されることはありません

(2) 所在地 都道府県名 _____ 市区町村名 _____

(3) 施設・事業の種類

公私の別 公立 公設民営 民営

児童発達支援センターの指定の有無 指定あり 指定なし

実施事業 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援
 居宅訪問型児童発達支援 障害児相談支援 その他（具体的に _____）
※同一施設・事業所内で実施している事業を教えてください。

運営主体 自治体 社会福祉法人 株式会社 一般社団法人 NPO 法人
 医療法人 学校法人 その他（具体的に _____）

重症心身型の指定の有無 指定あり 指定なし

(4) 回答者

管理者・施設長 児童発達支援管理責任者 その他（具体的に _____）

(5) 現在、以下の加算を算定していれば該当するものを選択してください。

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 中核機能強化加算【イ】 | <input type="checkbox"/> 中核機能強化事業所加算【イ】 |
| <input type="checkbox"/> 中核機能強化加算【ロ】 | <input type="checkbox"/> 中核機能強化事業所加算【ロ】 |
| <input type="checkbox"/> 中核機能強化加算【ハ】 | <input type="checkbox"/> 中核機能強化事業所加算【ハ】 |
| | <input type="checkbox"/> 算定していない |
| | <input type="checkbox"/> わからない |

(6) 以下の職員のうち在籍している職員を選択してください。

保育士 心理士 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
 看護師 上記以外の児童指導員 該当する職員はいない その他（具体的に _____）

(7) 児童発達支援で対象としている児童の年齢を選択してください。

乳児（0～1歳未満） 幼児（1歳～2歳） 幼児（3歳～6歳）
 小学生 中学生 高校生

(15) 普段、こどもが過ごす単位（クラスやグループ、小集団など）の編成は、次のどれに最も近い
ですか。以下から1つ選んでください。

- 個別（1対1）が中心で、集団活動はほとんどない／限られている。
- 個別（1対1）と小集団の両方を組み合わせている。
- 集団で過ごすが、年齢や障害の程度ごとに分けて活動することが多く、混ざる場面は少ない。
- 基本は一緒に過ごし、必要に応じて一部を分ける（異年齢・多様なニーズを含む）。
- 基本は一緒に過ごし、専門職が活動の場に入り支援を行う（別室に移動せず、その場で支援）。
- わからない
- その他（具体的に： _____）

2. インクルージョン推進に対する認識と役割

(1) 施設や事業所の運営において、影響があるものを教えてください。（5つまで複数選択可）

- 地域の人口減少（少子高齢化など含む）
- 地域の人同士の繋がり減少（地域コミュニティの希薄化）
- 社会における他者に対する寛容性の低下
- 契約児童数の減少
- 保護者の労働状況の変化（共働き世帯の増加や長時間労働など）
- 祖父母などの育児サポートの減少
- 保護者のこどもの発達に関する相談などができる専門的な支援の不足
- 保護者の精神的な健康問題の増加
- 施設・事業所の環境の維持・改善や職員の雇用や待遇の改善のための財政的な制約
- 職員の確保（採用と定着）が難しい
- 職員の精神的な健康問題の増加
- 児童福祉の職員の社会的地位向上の必要性
- 保育所等での障害のあるこどもの受け入れの増加
- 特になし
- その他（具体的に _____）

(2) 乳幼児期におけるインクルージョンについて、どのような認識を持っていますか。(複数選択可)

- 障害のあるこどもが地域社会や集団生活に参加できるよう、環境や支援を整えること
- 障害の有無にかかわらず、すべてのこどもが共に育ち合うこと
- こどもの違いや特性を認め合い、安心できる場や関係を保障すること
- 家庭で安心して育つ関係や支援を重視すること
- 保護者や家族の気持ちに寄り添い、家族全体を支えること
- 地域の保育・教育・医療・福祉の関係者や住民等が連携して支える地域づくり
- 児童発達支援が、地域のネットワークづくりの中核的な役割を果たすこと
- 特になし
- その他（具体的に _____）

(3) 障害のあるこどもの育ちを支えるために、保育所等と児童発達支援は、どのような関係にあると良いと考えますか。(複数選択可)

- 児童発達支援が主で支え、保育所等は補完的に利用する
- 保育所等が主で支え、児童発達支援は補完的に利用する
- 双方が役割を分担して協働して支える（保育所等と児童発達支援を併用）
- 保育所等が主で支え、児童発達支援は後方支援（専門的な助言や支援など）を行う
- 児童発達支援が積極的に保育所等に移行を進める
- 特に関心はない／関わる必要性を感じていない
- わからない
- その他（具体的に _____）

3. 支援の実態と工夫

A. 発達支援における理念と考え方

- (1) こどもの発達支援において、どのような理念や考え方（価値観・目指す姿）を重視していますか。

No.	発達支援における理念・考え方	重視や実施の程度
1	こどもの生活・遊び・子ども同士の関係を含めた“育ち全体”を支える 例：自由遊びや主体性を尊重し、こどもの意思や権利に配慮した関わりを行っている	<input type="checkbox"/> 重視しており、十分に実践している <input type="checkbox"/> 重視しているが、あまり実践できていない <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまり重視していないが、ある程度実践している <input type="checkbox"/> 重視しておらず、実践していない
2	家族との信頼構築や連携を通じて、共に育ちを支える 例：日々の生活の様子や成長を保護者と共有し、家族の状況や背景にも配慮している	<input type="checkbox"/> 重視しており、十分に実践している <input type="checkbox"/> 重視しているが、あまり実践できていない <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまり重視していないが、ある程度実践している <input type="checkbox"/> 重視しておらず、実践していない
3	地域との関わりを通じて、こどもが育っていくことを支える 例：保育所や他機関と情報共有や方針調整を行い、多職種で協働している	<input type="checkbox"/> 重視しており、十分に実践している <input type="checkbox"/> 重視しているが、あまり実践できていない <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまり重視していないが、ある程度実践している <input type="checkbox"/> 重視しておらず、実践していない
4	社会のインクルージョンが実現できるように取組を行う 例：障害の有無に関わらず、地域で共に育つ場づくりを推進している	<input type="checkbox"/> 重視しており、十分に実践している <input type="checkbox"/> 重視しているが、あまり実践できていない <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまり重視していないが、ある程度実践している <input type="checkbox"/> 重視しておらず、実践していない

- (2) 施設・事業所の特色・強みとしていることがあれば教えてください。

1. 環境・体制

- 少人数のため、こども一人ひとりの様子を細やかに把握している
- 食事・排泄・午睡など、生活場面に応じて柔軟に対応している
- 支援室や遊び場などの空間をこどもに合わせて調整している
- 支援時間や曜日をこども・家庭に合わせて柔軟に設定している
- 落ち着いた雰囲気の中で、じっくり関わる時間を取っている
- 併行通園でも、生活リズムや支援内容に一貫性をもたせている

2. 専門性・プログラム

- 専門的な特定のプログラムを実施している
- 専門職が個別セッションで子どもと直接関わっている
- 専門職が小集団のセッションを担当している
- 専門的な関わりを日常生活の中で実施している

3. その他の支援視点・体制

- 虐待リスクの早期発見・予防の視点を持って日常的に関わっている
- 職員の間で、視点や対応についての共通理解や対話を行っている
- 特にない
- その他（具体的に _____）

B.日常生活の場としての支援実践

このセクションでは、児童発達支援における「日常生活の場」としての役割（生活や遊びを中心とした関わり「保育的な関わり」）についてお伺いします。こどもの日々の生活に寄り添った支援について、ご回答ください。

(1) 貴施設・事業所において、子どもたちの生活や遊びを中心とした関わり「保育的な関わり」を、どの程度の子どもに対して行っていますか。（例：遊び、食事、休息、身の回りの支援など）

- すべての子どもに対して実施している
- 多くの子どもに対して実施している（7～8割程度）
- 一部の子どもに実施している（5割程度）
- わずかな子どもに実施している（2～3割程度）
- ほとんど実施していない

実施している方（すべての子どもから2～3割程度）にお聞きします。

(2) 日常生活の場としての関わりについて、1日あたりの時間はどのくらいですか。（もっとも多い時間帯をお選びください）

- 2時間未満
- 2時間以上～4時間未満
- 4時間以上～6時間未満
- 6時間以上～8時間未満
- 8時間以上

(3) 子どもが安心して過ごすための環境整備・調整をどの程度、重視していますか。

例：居心地の良さや温かな雰囲気づくり、こどもの困りごとを軽減する環境調整を行っている。

- 重視しており、十分に実践している
- 重視しているが、あまり実践できていない
- どちらともいえない

実施している方（「すべてのこども」から「2～3割程度」）にお聞きします。

(2) 個別や小集団の実施について、1回あたりの時間はどの程度ですか。（施設・事業所の日常生活の中で行っている場合も含めて、もっとも多いパターンをお選びください）

- 30分未満
- 30分以上～1時間未満
- 1時間以上～1時間半未満
- 1時間半以上～2時間未満
- 2時間以上
- 日常生活のなかで都度実施（特に時間が決まっているわけではない）

(3) 専門職によるアセスメントとその結果に基づいた支援の実施・見直しを、どの程度重視し実践していますか。

「アセスメント」とは、専門職（PT/OT/ST/心理士等）がこどもの発達や生活の様子を観察・評価し、その結果に基づいて支援を行い、再度見直す一連の流れを指します。

- 重視しており、十分に実践している
- 重視しているが、あまり実践できていない
- どちらともいえない
- あまり重視していないが、ある程度実践している
- 重視しておらず、実践していない

(4) 1対1や小集団で関わる際に、どのような工夫をしていますか。（3つまで複数選択可）

- こどもの発達の特性に応じて、課題や活動内容を個別に調整している
- 集中しやすい時間や回数に設定している（例：短時間で複数回など）
- 遊びや興味ある活動を取り入れて、意欲を高めている
- 小集団では、こども同士のやりとりを促す工夫をしている
- 個別セッションで得られた情報を職員間で共有し、日常の支援に活かしている
- 保護者にフィードバックを行い、家庭でも取り組める工夫を伝えている
- 特にない
- その他（具体的に： _____ ）

(5) 専門的な関わりを通じて、こどもの成長や変化を感じたエピソード、印象に残ったことがあれば教えてください。

※こどもの新たな表現・挑戦・集団参加などにつながった場面、専門職の関与が印象的だったことがあればご記入ください

自由記述

全ての方にお聞きします。

『B. 日常生活の場としての支援実践』と『C. 専門的な関わりとしての支援実践』の両方を踏まえてご回答ください。

(1) この1年程度で、貴施設・事業所の支援を通じて見られたこどもの「良い変化」に当てはまるものを選んでください。(5つまで複数選択可)

- こどもの行動や情緒が安定してきた
- 遊びや活動の幅が広がった（挑戦・参加が増えた）
- 表現・コミュニケーションが増えた（言語・非言語含む）
- 自主性・主体的な行動が増えた
- 感覚や身体の使い方の理解・調整が進み、活動が前向きになった
- 友達との関わり（相互作用・協同）が良くなった・増えた
- 保育所等での生活がスムーズになった
- 保育所等での友達との関わりが安定した・増えた
- 保育所等の移行が進んだ（保育所等の通園日数が増えた）
- 保育所等に完全に移行し、児童発達支援の利用が終了した
- 家庭での生活がスムーズになった
- 地域の行事や活動への参加が広がり、社会とのつながりが増えた
- 障害の有無にかかわらず、他のこどもと一緒に活動する機会が増えた
- 特になし／まだ実感できていない
- その他（具体的に _____)

(2) この1年程度で、貴施設・事業所の支援を通じて見られた保護者や家庭の「良い変化」に当てはまるものを選んでください。(5つまで複数選択可)

- こどもが楽しむ姿を見て、不安や心配がやわらいだ
- 保護者の安心感が高まり、こどもとの関わりが安定した
- 家庭での困りごとや家庭内の関係性（配偶者、祖父母など）が良くなった
- 障害や特性について理解が深まり、受けとめ方が変化した
- こどもの特性や成長を前向きにとらえられるようになった
- こどもの成長や変化を職員と一緒に喜べる場面が増えた
- こどもへの関わり方について、質問したり工夫したりする機会が増えた
- 同じ悩みをもつ保護者同士がつながり、支え合うようになった
- 保育所等と前向きに関われるようになった
- 就労やきょうだい児の子育てについて、前向きな話が聞かれるようになった
- 地域の行事や活動に参加しやすくなった
- 地域のこどもや保護者とのつながりが広がった
- 特になし／まだ実感できていない
- その他（具体的に _____)

(3) 上記で選んだ子どもと保護者や家庭の変化は、主にどの支援の影響が大きかったか教えてください。(3つまで複数選択可)

- 日常生活の場の関わり（生活・遊び・保育的な関わり）
- 専門的な関わり（個別／小集団の集中的な関わり）
- 日常生活の場、専門的な関わりの一體的に作用した
- こどもの併行通園先への保育所等との連携
- 家族支援・保護者支援
- 地域の子どもや家庭との交流・共同活動
- 地域の行事や活動への参加を促した支援
- 地域の関係機関との連携した支援
- わからない
- その他（具体的に _____）

D.併行通園・連携

(1) 現在、貴施設・事業所を利用している子どもの中で、保育所等に併行して通園している子どもはどの程度いますか。

- ほとんどいない/全くいない
- 2割未満
- 2割以上5割未満
- 5割以上8割未満
- 8割以上

併行通園の子どもがいる方にお聞きします。

(2) 併行通園を行っている子どもの保育所等との連携をどの程度行っていますか。

- 十分に連携できており、支援にも活かされている
- 不定期ではあるが、必要に応じて連携を行っている
- 形式的なやりとりにとどまり、実質的な連携は少ない
- 連携がほとんど行えていない

(3) 併行通園を行っている子どもの保育所等とどのような連携を行っていますか。(複数選択可)

- 園や施設・事業所などのこどもの様子の共有
- こどもの育ちの目標の共有・一致（個別支援計画の目標などを一致させる）
- 保育所等でのこどもの困りごとに合わせた支援の内容の変更
- 就学に向けた支援や移行に関しての情報共有
- 保護者の様子の共有や家族支援の話し合い
- 保育所等を含めた多機関との支援会議
- 合同での研修・学習会の実施
- 交流行事（行事参加・体験活動等）
- 併行通園先への移行支援

- 保護者を含めた保育所等との話し合い
- 障害の有無にかかわらず一緒に活動する機会づくり
- 特にない
- その他（具体的に： _____）

(4) 併行通園に関して感じている困難や課題として感じていることがあれば教えてください。（複数選択可）

- 保育所等との情報共有が不十分
- 保育所等と事業所で支援方針が異なり、こどもが混乱することがある
- 保育所等に登園することでこどもの生活リズムが乱れる
- こどもが複数の場を行き来することで疲労が大きい
- 連携するための時間の確保・調整が難しい
- 連携先の保育所等の理解が不足している
- 保護者の送迎負担が大きい
- 保護者との連絡・調整に時間や労力がかかる
- 制度や加算の仕組みが十分でなく、運営上の負担が大きい
- 障害のあるこどもが十分に受け入れられていない、または居場所感を持ちにくい
- 障害のあるこどもと他のこどもが自然に関わる機会が少ない
- 特にない
- その他（具体的に _____）

(5) 保護者に対して保育所等への移行や併行利用についてどのように提案していますか？

- 家族から希望がある場合のみ提案している
- 家族から希望がなくても、必要に応じて提案している
- 特に提案していない／聞いていない
- その他（具体的に _____）

(6) こどもの育ちを支えるために併行通園はどの程度重要だと考えていますか。

- 非常に重要 重要 どちらとも言えない あまり重要でない 全く重要でない

よろしければ理由をお書きください。

自由記述

E. 保護者との関わり

(1) 保護者との関わりや家族支援を行うなかで、困難や課題に感じていることがあれば教えてください。（複数選択可）

- 保護者が他のこどもとの違いから不安を感じる
- 他の保護者とうまく関係を築けず、孤立してしまう
- 同じ悩みをもつ保護者同士のつながりをつくる
- 保護者とこどもの姿を共有し共通認識をもつ
- 保護者と話せる時間を十分にとる
- きょうだい児や家族全体をふまえて、保護者のニーズを捉える
- 家族のニーズに対する捉え方を、職員間で一致させる
- 職員同士で保護者の困りごとや悩みを共有する時間をとる
- 関係機関と連携して支援する
- 保護者の送迎負担が大きい
- 特になし
- その他（具体的に _____）

F. こども・保護者の声の反映

(1) 日々の支援や関わりの中で、「こどもの声（言葉・表情・行動など）」をどのように受けとめ、支援に活かしていますか。

※「こどもの声」とは、言葉だけでなく、表情・しぐさ・行動・沈黙・視線など、こどもからのあらゆるメッセージを含みます。

- こどもの希望や興味、困りごとに気づき、支援に活かしている
- 個別支援計画や目標設定の際に、こども本人の思いを確認している
- 保護者から聞いたこどもの気持ちや様子を参考にして、支援に活かしている
- こどもと一緒に日々の関わりを振り返るようにしている
- 家庭・保育所等・事業所の目標を一致させ、活動に反映している
- こどもの声を地域や他のこどもとの関わりに活かしている
- 職員間でこどもの声を共有し、チームとして支援に活かしている
- こどもの声の反映は限定的で、改善の課題を感じている
- 特に意識していない/実践していない
- その他（具体的に：_____）

(2) こどもの声を受け止めることにどのような課題を感じていますか。（3つまで複数選択可）

- 時間・人員が不足している
- こどもの声を整理・共有する仕組みが不十分
- 受けとめ方・方法が分からない
- 信頼関係の形成に時間がかかる
- 多様なこどもの声を等しく拾うのが難しい
- 集団の中で一人ひとりの声が埋もれてしまう
- 職員間でこどもの声の受けとめ方に違いがある
- 特になし/課題を感じていない

その他 (_____)

- (3) よろしければ、こどもの声のとらえ方や、活動や関わりへの反映の具体例、工夫していることなどをご記入ください。

自由記述

- (4) 保護者の声や思いを日々の支援に活かすために、どのような工夫や取り組みを行っていますか。

- こどものことを一緒に考える機会を日常的に設けている
- 保護者の希望や意向、家庭での困りごとをふまえ、支援に活かしている
- 保育参観などの機会を設け、こどもの様子を共有している
- 同じ悩みを持つ保護者同士がつながる機会を設けている
- ペアレントトレーニング・子育て講座などを行っている
- 個別カウンセリングなど、保護者自身の心理的サポートを行っている
- きょうだい児を含めた家族全体のニーズを把握し、支援を調整している
- 保護者の声の反映は限定的であり、工夫が必要だと感じている
- 特にない
- その他 (具体的に _____)

- (5) 保護者の声を受け止めることにどのような課題を感じていますか。

- 時間・人員が不足している
- 記録や共有の仕組みが不十分
- 保護者間や職員との意見調整が難しい
- 保護者の声を職員間で共有する場が不足している
- 職員間で保護者の声の受けとめ方に違いがある
- 多様な保護者の声を平等に拾うのが難しい
- 地域や他機関に保護者の声を反映させにくい
- 特にない/課題を感じていない
- その他 (_____)

- (6) よろしければ、保護者の声のとらえ方の具体例や工夫していることなどをご記入ください。

自由記述

G.人材・職員体制について

(1) 現在、職員体制や環境はどの程度整っていると感じますか？

- 十分に整っている ある程度整っている どちらともいえない あまり整っていない
まったく整っていない

(2) 職場での職員の失敗や困りごとをチームで支え合える文化を作ることはどの程度重視していますか？

例：職員間での共通理解や対話を通じて、支援の質を高めている

- 重視しており、十分に実践している
重視しているが、あまり実践できていない
どちらともいえない
あまり重視していないが、ある程度実践している
重視しておらず、実践していない

よろしければ実践しているものを教えてください。

自由記述

(3) 以下の職員について、役割を十分に発揮できていると感じるものを選んでください。

- チーム全体の調整役として、多職種をつなぐ職員（マネジメント的な役割）
 保護者と信頼関係を築き、継続的に関わっている職員（家族支援の役割）
 家族の背景をふまえ、地域の人や資源とつなげている職員（ソーシャルワーク的な役割）
 行政や保育所等・医療など他機関と連携し、情報共有や会議調整を担っている職員（コーディネーター的な役割）
 インクルーシブな環境づくりを推進している職員（インクルージョン推進の役割）
 特にない

- こどもが過ごしやすいように新しい工夫（視覚支援／環境調整／個別配慮など）が取り入れられた
- 園内で支援会議や情報共有の体制が整った
- 保護者の参画や協働が進み、保育所等とのやりとりが増えた
- 障害のあるこどもを含め、多様なこどもの活動参加が広がった
- 特にない
- その他（具体的に：_____）

(4) 保育所等への後方支援（アウトリーチ）において、困難や課題として感じていることがあれば教えてください。（複数選択可） 併行通園児への支援は除きます。

- 保育所等と考え方や支援方針に違いがあり、協働が難しい
- 保育所等のニーズや困りごとを把握しづらい
- 自施設・事業所の職員のスーパービジョンやコンサルテーションの知識・経験の不足
- 時間的・人間的な余裕がない
- 報酬や役割の不明確さなど、制度上の制約で柔軟な支援がしにくい
- 地域における多機関の連携の仕組みが整っておらず、連携が難しい
- 障害のあるこどもを含め、多様なこどもへの理解やインクルージョンの視点が十分に共有されていない
- 特にない
- その他（具体的に：_____）

(5) 保育所等への後方支援（アウトリーチ）を行う際に、職員にどのような技術や考え方があることが望ましいと思いますか。（複数選択可）

- こどもの声を受け止め、保育所等の職員に適切に伝えられること
- こどもの発達や特性、集団での関係性を的確にアセスメントができること
- こどもや家庭の背景をふまえて助言できること
- 保育所等の理念や文化を理解し、職員とコミュニケーションがとれること
- 保育所等の困りごとを的確にくみ取り、具体的な支援方法や工夫を助言できること
- インクルーシブ保育の理念を伝えながら、現場に合った形で一緒に考えられること
- 障害のある子を含め、多様な子どもが参加できるように支援や配慮を助言できること
- 多職種や関係機関との連携・調整を行うコーディネーター的な役割を担えること
- 専門職としての継続的な学び（研修・スーパービジョン）
- その他（具体的に：_____）

(6) 地域支援・連携を行うための財源は、主にどのように確保していますか。（複数選択可）

- 自治体からの委託・指定管理料（例：巡回相談など）
- 国や自治体の補助事業・加算（地域療育等訪問支援事業など）
- 児童発達支援における中核機能関連の加算（中核機能強化加算・中核機能強化事業所加算）
- 保護者負担（利用料や協力金など）※保育所等訪問支援を除く

- 地域の園からの謝金・実費負担（例：連携活動にかかる交通費・謝金など）
- 法人の自己資金（事業収益の一部等）
- 民間財団などからの助成金
- 企業・団体などからの寄付金
- 特にない
- その他（具体的に： _____)

5. インクルージョンへの具体的な取り組み

(1) 障害のあるこどもと、ないこどもが共に過ごすことは必要だと思いますか？

- とても必要 ある程度必要 どちらともいえない あまり必要ではない 必要ではない
 よろしければ理由をお書きください。

自由記述

(2) 受給者証のない地域のこどもや通所しているきょうだい等が、利用児と同じ場・同じ活動で短時間でも一緒に過ごせる取り組みで行ったものを教えてください。（複数選択可）

- 施設内での利用児との合同活動（遊び・行事・体験）
- 屋外・公共スペースでの交流活動
- 行事やイベントに、きょうだいや地域の子どもを招いて一緒に参加した
- 普段の活動（遊び・製作・運動など）に、短時間だけ一緒に入った
- 保護者と一緒に参観や見学をしながら、少し活動に加わった
- 活動後の交流の時間（おやつ・自由遊びなど）に一緒に参加した
- 外部講師や体験活動（音楽・運動など）に一緒に参加した
- 特にない
- その他（具体的に： _____)

(3) インクルージョンの推進に向けて、どのような制度改革や支援体制の整備が必要だと感じますか。（複数選択可）

- 保育施策と障害児施策の一元化により、制度間の分断を解消する
- 受給者証の有無に左右されない、すべてのこどもが利用できる仕組みを整備する
- 自治体の担当者の異動があっても連携が継続できる組織的な仕組み
- 包括的な研修制度と人材育成、待遇改善（給与・業務量調整など）の推進
- 定期的なスーパービジョンや外部支援者との相談機会の確保
- 専門職の保育所等への配置（PT/OT/ST/心理士など）
- 地域支援における財政保障を強化する
- インクルージョンの成果に基づく報酬体系・加算制度の創設
- バリアフリー改修やクールダウンスペース等の施設基準整備と財政支援

- 地域内に相談・連携できる中核的センターの整備
- 地域協議体やネットワークの制度化
- 児童発達支援センターや事業所の中核機能について、保育所等への理解・周知を促進する
- 特にない
- その他（具体的に： _____)

(4) これまでのアンケートの内容に関係なく、乳幼児期のこどものインクルージョンについてのご意見をご自由にご記入ください。

自由記述

ヒアリング調査へのご協力をお願い

今回の調査に基づき、ヒアリング調査を検討しております。ヒアリング先として選定された場合、ご協力いただけますでしょうか。可能であれば、以下にご連絡先をご記入ください。日程調整や詳細はご連絡時に相談いたします。なお、提供いただいた情報はヒアリング調査の依頼以外には使用いたしません。

施設・園名

住所

連絡先（電話番号）

連絡先（メールアドレス）

担当部署、担当者名

その他お気づきの点や補足、連絡事項等がございましたらご記載ください。

自由記述

お忙しい中、調査へのご協力を誠にありがとうございました。